

交通安全だより第8号

I. 8月の安全運転管理について

1. 高速道路での安全運転とは

～渋滞時の安全運転について～

例年に比べ、帰省や夏季休暇に伴う渋滞は少なくなることが予想されますが、渋滞の最後尾の車に追突する事故が多発していることから、まずは渋滞の発生を見落とさないように注意が必要です。道路情報板による渋滞情報で「渋滞あり」の掲示を見つけたら速度に注意し渋滞に備えましょう。渋滞車列を発見して低速走行や停止する場合はハザードランプを点灯しながら後続車に合図を出しましょう。そして後続車が減速しているのを確認してから、徐々にスピードを落としましょう。

渋滞中は「低速だから・・・」とわき見等をせず、前方への注意を怠らないようにするとともに、車間距離を十分に取って走行しましょう。渋滞の発生しやすいサグ部やトンネルの出入口、料金所付近では、とくに注意して下さい。

～歩行者とのまさかの事故を防止する～

走行中に人や停止車両へ衝突する「まさか!の事故」が後を絶ちません。通常、高速道路の本線に人が立っていたり、車両が止まっていることはありませんが、事故や故障等により、こうした事態が発生していることによるためです。万が一事故を起こした場合は、ガードレール等の安全な場所に避難しましょう。

～積載状況をチェックする～

高速道路上では、約4分に1件の割合で落下物が発生しています（NEXCO西日本調べ）。落下物は渋滞や重大事故の原因になります。運転前や休憩時に、①積み荷がしっかり積まれているか、②シート等は掛かっているか、③ロープに緩みがないか。といったことを確認していきましょう。

～うっかり事故を防ぐ～

長い下り坂でフットブレーキを多用すると、フェード現象※1やベーパーロック現象※2によってフットブレーキが効かなくなるおそれがあります。長い下り坂を走行する時は、フットブレーキだけではなく、アクセルオフやシフトダウンによるエンジnbrake、排気ブレーキ等を効果的に使いましょう。

※1 フットブレーキを使いすぎるとブレーキパッドが非常に高熱になり、摩擦材の熱分解で発生したガス膜がブレーキローターの間にはさまることで摩擦力が減り、ブレーキの効きが悪くなるのがフェード現象です。

※2 ベーパーとは英語のvaporで「蒸気」という意味で、蒸気によって制動力の伝達がlock「阻害される」ということを指しています。フットブレーキを使いすぎると、その摩擦熱がブレーキフルード（ブレーキ液）に伝わり、ブレーキフルードが沸騰し、気泡が発生します。気泡が発生すると、ブレーキペダルによって発生した油圧がブレーキフルードに伝わらず、ブレーキが効かなくなってしまう。



要注意の場所1 合流地点

合流地点では、本線を走行する車両と流入車間で速度差があることから、流入車と衝突する危険があります。合流地点では、流入車の有無をしっかりと確認し、スピードと車間距離を調整しましょう。



要注意の場所2 トンネルの出入口付近

トンネルの出入口付近では、視界の悪化でスピードを落とす車があります。また、出口付近では早くトンネルを出ようとスピードを上げる車がいるなど、各車に速度変化が生じやすく、追突の危険が高まりますので、前後の車の動静を確認して車間距離を取りましょう。

2. 生活道路での事故防止

児童・学生が夏休み期間中です。子供たちが思わぬところにいることもあり、走行する際には注意が必要です。とくに見通しの悪い交差点では、子供や自転車の飛び出しに気をつけましょう。また、道路上に子供たちを見かけた場合には、その動静に注意し、減速するだけでなく、必ず徐行・一時停止を行って安全に走行して下さい。

3. ゲリラ豪雨時の安全運転

突発的かつ局地的に激しい雨や落雷をもたらすゲリラ豪雨の発生が、ピークを迎えます。ゲリラ豪雨に遭遇すると、視界が悪くなるため、交通事故につながりかねません。無理に走行せず、安全な場所で待機するようにしましょう。また、冠水した道路に安易に進入してしまうと、途中で車が止まってしまうおそれがあります。冠水路には進入しないようにしましょう。

II. 今月の交通ヒヤリハット

・事業場より提出されたヒヤリハットです。危険予知活動に利用してください。

いつ	午後7時ごろ
どこで	街灯のない暗い道（田んぼを横断）
何をしている時に	ハイビーム点灯で走行中
どうなった	ダーク系の服装の歩行者がいたが近づくまで気づかずヒヤリとした。